

『『365 の石段』～ 一步一步、身長が伸びる如く登る ～』

2023年2月3日 京王多摩センターのパルテノン大通りの『石段』の数が話題になった。伊香保温泉(群馬県)の『365の石段』が鮮明に思い出された。筆者は、新渡戸稲造(1862-1933)は、札幌農学校教授時代に鬱的になり2年間保養したと若き日に聞いたものである。【1年目の日本での最後の保養地は伊香保温泉の『365の石段』の横の旅館であったと！そこで論文『農業本論』を書き、日本で最初の農学博士になったと！】思えば、2002年『今は亡き 元検事総長・元東京女子大理事長 原田明夫 氏 (1939-2017)』と『21世紀の知的協力委員会』の理念で、一緒に『伊香保温泉 福一』で企画・開催した【『新渡戸稲造生誕140周年』シンポジウム】が蘇ってきました。シンポジウムの翌日の早朝、伊香保温泉街を散歩し、『365の石段』を一步一步、身長が伸びる如く登ったものである。

そして、原田明夫氏とは、継続的に下記のシンポジウムを行った。

*2000年『新渡戸稲造 武士道 100周年記念シンポ』(国連大学に於いて)*

*2002年『新渡戸稲造生誕 140年』(伊香保温泉に於いて)*

*2003年『新渡戸稲造没後 70年』(札幌に於いて)*

*2004年『新渡戸稲造 5000円札さようならシンポ』(国連大学に於いて)*

『20世紀の知的協力委員会』(12名のメンバー)は、新渡戸稲造が、国際連盟(ジュネーブ)で立ち上げた(後のユネスコ)。アルベルト・アインシュタイン(Albert Einstein、1879 - 1955)、キューリー夫人(1895 - 1906)もメンバーであった。『真の国際人』とは、『賢明な寛容』を持ち、『能力を人の為に使う』人物であろう！『はしるべき行程』と『見据える勇氣』は、『次世代の社会貢献』の羅針盤となろう。新渡戸稲造の2年目の保養地はアメリカで女性ライターとの聞き書きで『武士道』(1899年 英語版)を完成させたと学んだ。

2023年2月14日は、『メディカル・カフェ@よどばし 100回記念』(淀橋教会に於いて)に赴いた。会場で、多数の質問が寄せられ、大変充実した有意義な時であった。100回記念として、素晴らしい『～居場所づくり、思い出づくり～ Medical Café 言葉の処方箋』のノートが配布された(画像)。大いに感動した。

「自分の命よりも大切なものがある」

樋野興夫

<感染症に命をかけた日本人医師三名>

笠原良策 (1809~1880 天然痘)

秦 佐八郎 (1873~1938 梅毒)

肥沼信次 (1908~1946 チフス)

「悲しい時には私のところに来なさい。  
一緒に泣きましょう。」 勝民子 (海舟の妻)  
寄り添う…そっと横から手を添える

<30m後ろからじっと見守る>

樋野先生は、小学校の終わりから中学にかけて「言うこと聞かず」で、母上は度々学校に呼び出された。その時の近所のおばあさんの言葉。

「お母ちゃん、心配することないよ。この子は大きくなったら立派な大人になるから。」

「自分の力が役に立つときには、進んでやれ。」 新渡戸稲造

「病気の時はどんな近代的な人も太古の人間に帰る。その時の救いは、頼りになる人がそばにいてくれること。」 吉田富三

メディカル・カフェ@よどばし 100 回記念 2023.2.14

～居場所づくり、思い出づくり～

*Medical Café*

言葉の処方箋

<解決はしなくても解消はする>

「あの内村鑑三先生が、『わたしにも分からない』とおっしゃった。それで私の悩みも解消した」 矢内原忠雄

わたしに “は” 分からない…冷たい響き。他のところに聞きに行けというのと同じに聞こえる。

わたしに “も” 分からない…いろいろ考えたが、分からないという意味。質問した人の悩みを解消する。

<メディカル・カフェ誕生秘話>

次の言葉が樋野興夫先生の心を動かした。

「矢内原忠雄先生は、悩める東大生のために本郷通りにカフェを開きたい、と話しておられた。」

南原繁 (矢内原の追悼式にて)